

# 横澤夏子さん

## SDGsの目標の大切さを 笑いを通して伝えたい

テレビや劇場でたくさんの人に笑いを届けている横澤夏子さん。最近では、吉本興業(よしもと)が進めているSDGsのPR事業にも参加しています。テレビで見る、明るく気さくなキャラクターそのままに、「自身の子ども時代での体験や将来の夢などを交えながら、横澤さんが身近で感じるSDGsの大切さをお聞きしました。」



### 高校時代に一念発起し、 憧れの芸人の道へ

私は、もともと目立ちたがり屋なんです。高校生の頃は生徒会長をやったり、今でも同窓会の幹事を買って出るほどです。本当は東京の大学に進学するつもりだったのですが、ある日、テレビでタカアンドトシさんが大勢の前で漫才

をしているのを見て「こんなに目立てる舞台があるんだ!」と思ったんです。両親には受験シーズンの直前に「芸人になる! 東京に行ってNSC(吉本総合芸能学院)に入る!」と打ち明けたのでびっくりしていました(笑)。今では憧れだった芸人さんと共演させていたただいているので、高校生の頃の自分に自慢したいです。

### 子ども時代に培った、 食べ物への感謝のこころ

テレビ出演や劇場でのお仕事のほかに、イベント出演などもやらせていただいています。その中で、よしもとが会社をあげてSDGs啓発事業に取り組んでいることもあって、SDGsをPRする



「今の子どもたちにSDGsの大切さをいかに伝えていくかが重要」と話す

しました。

SDGsの目標の中では、食べ物に関連する「飢餓をゼロに」が身近に感じます。私は出身が新潟県で、実家は農家でした。当たり前のように、うちでは食べ物を粗末にすることは御法度でしたし、大変な農作業を見て育ってきたので、食べ物のありがたみを実感しながら生活していました。私もよく田植えの手伝いをしていて、ゴールデンウィークは田植えをするためにある連休だと思っています。あれ? みんな遊んでるけど、田植えしないの? って(笑)。それくらい農業は身近なものでしたね。

### 笑いで伝え 笑いで世界を変える

さや、食べ物のありがたみってすっかり理解できると思います。日本人だったら、みんな人生に一回は、米作りを体験してほしいですね! 米作りをしている人に悪い人はひとりもいませんから(笑)。

は託児所の所長としても働けたらうれしいですね。  
一見難しいSDGsを笑いを交えてわかりやすく伝えることは、素敵なことだと思います。世界をよくしていくSDGsの目標の実現のために、「SDGs-1グランプリ」のようなイベントは素晴らしい機会だと思うので、これからも続けていきたいです。

動画に出演したり、イベントに参加したりしています。SDGsの17の目標を初めて見たときは、大きな問題ばかりで私にはハードルが高すぎるかなと感じましたが、よく考えてみると実は身近な問題も多かったです。2017年に北海道で行われた「みんなのウィーク」や、18年に京都で行われた「京都国際映画祭」では、SDGsの要素を取り入れたネタを披露する「SDGs-1グランプリ」に参加しました。17の目標の中から例えば、「貧困をなくそう」や「海の豊かさを守ろう」などを、お客さんに選んでもらってほぼ即興でネタをやるというものです。「みんなのウィーク」では、なんと優勝

今では、結婚して料理をする機会も増えたので、これまでより食べ物大切に意識が高くなっています。食材は必要な分だけ買おうとか、くず野菜でだしをとってみようなど、身近なところからエコ活動を実践しています。もしこれから子育てをする機会があれば、子どもたちに農作業を体験してもらいたいです。そういう体験をすることで、自然の大切

これからも芸人として頑張りたいのはもちろんなんですけど、東京にある、よしもとの劇場「ルミネ theよしもと」に託児所を作りたいという夢があります。子連れのお母さんが劇場に来たときに、劇中にお子さんが泣いてしまったり、席を立ててしまう姿をよく見られます。託児所があれば、お母さんも心置きなく劇場に足を運べて、もっと楽しめると思います。最近では女性芸人もたくさん活躍していますし、SDGsの目標の「ジェンダー平等を実現しよう」につながるのだと思うので、絶対に実現したいです。私自身も子どもが好きで、ベビーシッターの資格をもっているのです。将来的に



各地のイベントに参加し、SDGsの大切さを笑いとともに届けている(京都国際映画祭にて:左から3番目)